



彫刻刀が刻む戦後日本 —2つの民衆版画運動—

2022年4月23日(土)～7月3日(日)

観覧料:一般=900(700)円、高校・大学生=450(350)円

中学生以下は無料

※()内は20名以上の団体料金

※4月23日(展覧会初日)は入場無料

※シルバーバー[4月27日(水)・5月25日(水)・6月22日(水)]は
満65歳以上の方は入場無料

工場で、田んぼで、教室で みんな、かつては版画家だった

戦後の日本で展開した2つの民衆版画運動を紹介。

一つは中国の木版画運動の影響で版画による社会運動と版画の普及を目指した戦後版画運動。

もう一つは、全国の小中学校教員たちが学校教育で版画教育を広めた教育版画運動です。

約400点の豊富な作品と資料を通して、あまり知られることのなかった版画史の一側面に光を当てます。

(学芸員 町村悠香)



滝平二郎『裸の王様』より
1951年、木版、町田市立国際版画美術館

※新型コロナウイルスの影響で会期に変更が生じる可能性があります。

友の会だより

多彩な表現を求めて

「友の会アートスクール 銅版画講座」

版画美術館 工房

2021/12/11(土)～2022/1/22(土)全5回実施

今回の銅版画講座は、間宮先生、伴野先生にご指導頂いて、2021年12月から翌年1月にかけて土曜日の午後、数回に分けて開かれました。初心者でも半日で絵が刷れる『ドライポイント法』、試行錯誤して好ましい条件を探す『ウェット法（エッチングやアクアチント）』など、様々な技法があるので、多彩な表現ができることが銅版画の特徴です。

受講生は、自由に画題（写実的なものから心象風景、さらに幻想的なものや抽象的なものまで）を選び、講師の方が受講生の目指す版画に適した技法を個別に、そして丁寧に指導してくださいます。思いがけない良い出来ばえに感動したり、期待した絵にならず落胆したり、自由闊達・気ままに創作を愉しんでいます。やればやるほど、『次こそは』と、より深い表現を追求したくなる奥の深さ、それが銅版画の魅力です。



友の会会員 中嶋賢二

友の会アートスクール絵画教室「やさしい水彩画講座」に参加して

版画美術館アトリエ

2021/10/5(火)～2021/11/2(火)全5回実施

当講座は1回あたり約3時間の枠で開催されています。第1回目の題材は野澤奈穂子先生が持参してくださった色々な形・色の貝を用いて静物画を描きます。先生が執筆なさった『透明水彩画HAND BOOK』に掲載の「美しい螺旋のオウム貝」の作品を見て、私も描いてみたいと思い、オウム貝を是非選びたいと必死な姿は我ながら見苦しくも、どうしても他の方には譲りたくない気持ちでした。螺旋の黄金比を教わりながら、美しく成長した姿を表現することができたと自己満足。



第2、3回目は受講者からの要望で、先生が予め作成した三作品から1つを選んで模写する実習。デッサンする際の視点の捉え方を最初に教わってから描いていくのですが、先生の作品に比べ、なんか違う？自分なりに見切りを付けて色を乗せていくのですが、なぜか真っ平な絵になり悩んでいると、先生の手直しで奥行きや光や石畳の表情が浮かび上がってきました。“野澤マジック”本当に魔法の手のようです。終了時間前に受講生の絵を並べての講評は自分以外の作品から学ぶところが多くあり、とても参考になります。

第4、5回目は恒例の写真から描く水彩画。光と影。写真をそのまま描くのではなく、現場の空気感を思い起こして描いてゆきます。そこには、風、温度、におい、透明感、感動も呼び起されます。

絵を描くことでコロナ禍で閉じ込められた心が解放されるようでした。

友の会会員 黒田奈生子

※「友の会アートスクール 木版画講座」は昨年7月～9月にかけて全6回アトリエ・工房において開催されました。

会場の工房は本格的な版画作品が制作できる版画工房です。銅版画（エッチングなど）とリトグラフ（石版画）の制作設備と道具が備えられており、制作希望者に利用されています。興味のある方は版画美術館工房へお出かけください。

友の会会員募集中！

《会の目的》版画美術館の事業活動支援・会員の教養、親睦を深める・美術、文化および地域文化の向上

《主な特典》美術館企画展が会員証提示で、無料で観覧、当館発行書籍の割引があります。

《年会費》一般会員3,000円（入会金2,000円）・ファミリー会員2,000円（入会金1,000円）

・学生会員2,000円（入会金1,000円）・賛助会員1口10,000円（法人・個人不問・口数任意・各種特典あり）

※会員期間 一般・ファミリー・学生は、毎年4月1日～翌年3月31日 但し、賛助会員は、入会月より1年間

※申し込みは、友の会事務所へ TEL・FAX 042-726-3051

●私の一枚●

“新コロナに頑張っておられる医療従事者に感謝を込めて”驚くほどの貴重な体験に

この大変な厄災の新コロナパンデミックに自らの命を掛けて頑張っておられる医療従事者に感謝仕切れない程に感謝するところです。

私としても何かその感謝の意を医療従事者に、お伝えしたいと、江戸時代に佐賀の有明で疫病退散&厄除けの妖怪として信仰されていた「あまびえ」の木版画を制作し医療従事者にお贈りしたいと思いました。その「あまびえ」は、暗いイメージをさけコミカルでカラフルな14色刷りのものとし、「日々見て、感染しない、感染させない」と心に思うことが出来ればと念じて制作しました。更に、伝手を頼って厄除け大師とも言われる川崎大師様に何かお印を加えて頂きたいとお願いし、「開山900年以来、その様なことはしたことはないが、新コロナに対して思う気持ちは同じです」とし、管主様によって「大本山川崎大師平間寺」と一筆を記し、公印を押して、特別な護摩供養までもして頂きました。ここから更に驚く展開に。

世界的な浮世絵のコレクターの川崎在住の斎藤文夫様から、ここまでして頂いた「あまびえ」だから「菅総理にもお渡ししよう。それと秋田県出身だから『なまはげ』も一緒にお渡ししよう。」と、一昨年の12月16日、官邸へ一緒に訪問し菅総理に2枚の木版画をお渡しするという貴重な体験をさせて頂いた次第です。菅総理は大変喜んで下さり「またないものを頂いて、勇気百倍頑張ります。執務室に飾ります。」と仰って下さいました。

更に「あまびえ」は、小池都知事、石坂町田市長、福田川崎市長等7名の方々にもお渡しし、最初の目的の新コロナで頑張っている医療従事者に小池都知事経由で10名の方々、福田川崎市長経由で5名の方々にお渡しすることも出来ました。多くの方々に喜こんでいただいたと、後にお聞きし、私の感謝の意を伝えられたかと思っています。また、鈴木副館長のご厚意もあって、版画美術館のエントランスにも飾らせて頂いております。

一人でも多くの方が「感染しない。感染させない。」と思って頂ければ幸いです。「本当に木版画をやっていて良かった。」「木版画仲間、先生にも感謝です。」

今回は、貴重な体験をさせて頂きました。そして、ただただ「新コロナが収束し普通の生活に戻れること」を願うばかりです。

友の会会員 金丸正二



予告

第25回友の会定期総会

2022/5/28(土)13:30~ (会場:美術館 講堂)

- ・2021年度事業報告および2022年度事業計画案
- ・「10年継続会員」紹介と記念品贈呈
- 議事終了後、“学芸員のミニレクチャー”を行います。多数のご出席をお待ちしております。

2021年度・事務局だより

2021年

- 4/6 合同部会⑥
- 4/9 会員展実行委員会(第22回展反省)
- 4/15 会計監査(2020年度)
- 4/23 館との相互協定書提出
- 4/24 理事会・第24回 定期総会
- *4/26 コロナ禍緊急事態宣言に伴う休館・友の会室閉室通知:全会員宛はがき発送
- *6/1 開館
(以後緊急事態宣言延期・まん延防止期間延長発出)
- 6/19 玉川大まつり現地見学
- 6/29 合同部会①
- 7/16 理事会 兼
第23回ゆうゆう版画美術館まつり運営委員会①
- 8/3 合同部会(まつり関連)②
- 8/31 23回まつりポスター・デザイン審査会
- 9/7 ゆうゆう版画美術館まつり・運営委員会②
- 9/16 新美術館建設関係質問会
・12/19 回答会(館主催)
- 10/26 ゆうゆう版画美術館まつり・運営委員会③
- 10/27 館運営協議会
- 10/30・31 第23回ゆうゆう版画美術館まつり
- 12/7 ゆうゆう版画美術館まつり・運営委員会④
- 12/10 合同部会③・会員展企画会議
- 12/21 会員展打合せ

2022年

- 1/18 次年度行政財産目的外使用願提出
新美術館建設に対する意見館へ再提出
(前回2020.12.2)

- 1/21 会員展実行委員会①
- 2/1 会員展実行委員会打合せ
- 2/2 館運営協議会
- 2/15 会員展出品者宛て資料・森のコンサート延期案内発送
- 2/22 合同部会④
- 3/1 会員展実行委員会②
- 3/15~3/20 第23回 友の会会員展
- 3/29 合同部会⑤
- 4/8 会員展実行委員会③

*総務部

発送:4/8~1/25
新年度に向け新会員証順次発行

*事業部

AS:木版画(7/28~)・絵画(10/5~)・銅版画(12/11~)
・市内パブリックアート巡り 参加15名(12/2)
・森のコンサート 来場者180名(3/27)

*広報部

まつり&会員展 展示 印刷 発送
広報パネル作成・掲示

企画展

2022年7月16日(土)～9月25日(日)

長谷川潔 1891-1980 展

— 日常にひそむ神秘 —



《アカリヨムの前の草花(草花とアカリヨム)》1969年、メゾチント、当館蔵

長谷川潔は1910年代半ばに文芸同人雑誌『仮面』の版画家として創作活動を開始、1918年に日本を去ってフランスへ渡って以来パリを拠点に活動した銅版画家です。サロン・ドートンヌやフランス画家・版画家協会に所属してパリの画壇で高く評価されたほか、フランスでは文化勲章、日本では勲三等瑞宝章を授与されるなど、芸術家としての功績がたたえられています。国際版画美術館は2018年度にこの版画家の展覧会を開催しましたが、会期が短かったこともあります。今回展示内容を変えてあらためて開催いたします。

本展では、最初期の作品から1970年代初期の銅版画までを年代順に展示し、そのところどころにコラムを挿入するかたちで関連作家の作品も展示いたします。深い精神性が反映された長谷川潔の深遠な表現世界に、あらためて向き合って見てください。

(学芸員 滝沢恭司)

2022年4月、版画美術館副館長 星野 中氏 着任。前副館長鈴木敬之氏 3月末退任されました。

第23回ゆうゆう版画美術館まつり 報告

開催：2021-10/30(土)・31(日)

主催：ゆうゆう版画美術館まつり運営委員会（美術館・友の会共催）

晴天の下、「第23回ゆうゆう版画美術館まつり」は開催。今回もコロナウイルス禍で各地のお祭りが中止されるなか、運営委員会及び各催事担当者の協力で開催。検温・手指の消毒・マスク着用の協力を呼びかけ、更に混雑しないよう入場制限を行うことで、活気に満ちた催事に。恒例の「木版画摺り体験」「ゆうゆうコンサート」「キッズ・アートスペース」「まつりポスター・デザイン展」「市域学生によるアートイベント」の出展があり、福祉作業所は1店の参加でした。町田サポーターズの応援、シャトルバスの運行、来場者4,800名から喜びの声があり、「まつり」は無事終了となりました。

まつり運営委員会 報告

*「町田市立博物館」は雨天中止でした。



第23回会員展報告

2022-3/15～3/20開催

恒例の会員展、今年も開催出来ました。

出展者46名出展数81点

会期中は雨天冷涼な日もあり、例年に比べて来場者数は伸びず、来客者は643名。来場者のアンケートでは今年も心温まるご意見をいただきました。来年も更に高評価を得られる会員展につなげる所存です。

会員展実行委員会一同

編集後記

ジブリ「魔女の宅急便」の世界感と重なった今回注目の展示作品。歴史も含め、色々な角度からアート作品を観ることができる美術館。この魅力を堪能したい。（m m）

編集スタッフ：井戸上千鳥・大西均・武藤充